

サッカー観戦のすすめ

僕が最初にサッカーの試合を観たのは今から14年前の2006年、ドイツで行われていたワールドカップであったと記憶している。その年の8月には初めてスタジアムで観戦した。当時の記憶はほとんどない。しかし、それから現在まで続く最高の余暇と出会ったこの年は僕の人生を決定づけたと言っても過言ではない。

大体のサッカー好きがそうかもしれないが、僕はスタジアムで試合を見るのが好きである。スタジアム観戦には、テレビ観戦にはない醍醐味が3つある。

まず試合について言うと、テレビとは見え方が全く違う。サッカーでは選手が1試合90分の間にボールに触れる時間はわずか2~3分と言われている。選手にとってはボールを持っていない時間の方が圧倒的に長く、ボールを持っていない選手の動き、ポジショニングを観察することもサッカーの楽しみ方の1つである。ボールのない場面をじっくり見られるのはスタジアム観戦の特権であり、テレビでは味わえない楽しみである。

次に「チャント」と呼ばれる、各チームの応援歌を聞くこと。チャントには各チームサポーターの個性が表れる。北海道コンサドーレ札幌や浦和レッズは聞いているこちらが身震いするほど、いつも声量が凄い。鹿島アントラーズのチャントは歌詞がシンプルで歌いやすく、声に重厚感がある。僕が一番好きな清水エスパルスのチャントは思わず口ずさんでしまうような、サンバのリズムで軽快なものが多い。チャントを聞くだけでもスタジアムに行く価値がある。もっといろいろなチームのチャントを聞きに行きたい。

試合以外の楽しみもある。スタジアムの雰囲気や景色、スタジアムグルメなどは楽しみの1つ。遠方のスタジアムを訪ねた時には、試合の前後に観光もする。

初めてスタジアム観戦をしたのは鹿島アントラーズの本拠地がある茨城県の鹿嶋であった。この鹿嶋、スタジアムの周辺には何もない。だからこそ海沿いを車で走っていて、突然にスタジアムが視界に飛び込んできたときの興奮は大きい。鹿嶋には5回ほど行ったが、試合後は行きつけの、クマのマークが目印の旅籠屋に宿泊し、翌日に大洗のアウトレットや水族館に行き、寿司を食べるのが定番であった。良い思い出である。

清水エスパルスの本拠地がある静岡県清水も印象深い。スタジアムが割と標高の高い場所にあり、周囲を森に囲まれていてとても良い雰囲気。座席からは富士山が見え、富士山を横目にサンバのチャントを聞きつつ、試合を見ながら食べる静岡県のB級グルメ「富士宮やきそば」はとても美味しい。何回でも行きたくなるスタジアムである。

昨年10月には、ずっと行きたいと思っていたガンバ大阪のホームスタジアム「パナソニックスタジアム吹田」を訪ねた。大阪府吹田市にあるこのスタジアムは税金を使わず、寄付金で作られたという。あの雰囲気と臨場感は吹田でしか味わえない。世界でも有数のスタジアムだと思う。毎試合あんなに素晴らしいスタジアムで試合が見られるガンバのファンが心底羨ましい。また最寄り駅の目の前には、1970年の万博の際に作られた「太陽の塔」があった。思いがけない観光ができて得した気分であった。

仙台、松本、京都、北九州など、まだまだ行ってみたいスタジアムは多い。特に北九州はすぐ隣が海で、よくボールが「海ポチャ」するらしいので気になる。今後もサッカーのある生活を楽しみたい。